

## 「不易流行 -ロータリーの来し方行く末-」

ロータリー理念研究委員会  
島 正彦  
(館山IRC)

前回の10月号に引き続き、佐藤千壽翁<sup>せんじゅ</sup>の講演のご紹介です。ロータリーの理念として求めるところは、職業奉仕に起因する我々職業人の職業倫理の高揚であると一貫してお話しされる中で、国際ロータリーにも言及されています。

「私はロータリーの来し方を見る上で歴代RI会長方針をずっと最初から調べてみました。それらは会員増強と財団寄付の督励とこれらを最重点に据えた上で飢餓追放、貧困対策、災害救助、暴力追放、疾病予防、識字率向上等々、RI本部機関が企画し資金を出す、そして国連や赤十字の一翼を担ってやる奉仕活動です。そのためには会員を増やし人頭分担金も増やしていかなければならない。(中略)ロータリー財団は教育を通して国際理解を進め、その結果として世界平和の実現を図るということでしょう。その限りにおいてはまさに人間育成というロータリーの基本精神に適うものです。(中略)ところが、今や財団が純粋に教育のために注ぎ込む金は3分の1ぐらい。その他は人道的という看板のもとに行われる慈善事業です。ここまで来るとはたしてポールハリスの志とずれてくるのではないか。」と問いかけます。

さらに、「現実問題として、財団のためのロータリーであり、財団あってのロータリーだということも確かです。」と認めたくて、「だからと言ってそのまま財団だけに傾斜していいのでしょうか。」そのうちに「職業倫理などとうるさいことを言わないから、とにかく大いに儲けてください、そしてたくさん寄付して下さい。そうすればそれぞれの寄付高に応じて階級づけをした称号を差上げます。財団功労者としてあなたの名がロータリー史上に長く記録されるでしょう。そのようなことになるのではないのでしょうか。」と心配しています。

一方、組織としての国際ロータリーについては、「平均的傾向としてみますと、クラブ数は増える、地区数も増えていく、それなのに会員は減少する。問題はそこです。つまり退会者が多いということです。ただ拡大と言って誰でもいいからおいでとやっていたら、当然内容は低下するでしょう。だからむしろRI会長もその点は忘れておりません。質の向上、会員教育を盛んに言っております。」「自分もロータリーの仲間に入りたいというぐらいにロータリークラブの魅力が高まらなければ、おいでと言っても会員が増えるものではありません。」と指摘します。

ここで千壽翁はこれら財団や国際ロータリーの現状を否定はせずとも「会員増強も財団資金も、職業奉仕推進という使命、基本理念を失ったならば結局ロータリーは慈善団体ではなからうかと思うのです。私が職業奉仕の空洞化ということを恐れるのはその辺です。」とロータリーの行く末を按じます。

講演の終盤にロータリーの「流行」について話されています。前稿でも触れたように、インターネットや携帯端末の出現から到来する「**電腦社会**」とも言うべき「**フロンティアの時代**」において、そして地球のグローバル化からくる様々な問題の地域間格差(先進国と後開発国間の飢餓・貧困・教育格差等)を踏まえて、そういう多様化した地域社会・国際社会に於いてロータリーが存続するためには「中央集権から地方分権、地方自治への移行」が必要であり「ロータリーの主役は財団になります。そして現在のRI本部は財団のための集金機構になります。」と未来の姿を透視されます。

そのうえで「国際ロータリーは再編成され国別あるいはゾーン別に大幅な自治権を持った組織が数多く出ていき、標準クラブ定款というものがなくなります。」と大胆な展開を予想されます。その結果、クラブの形態も『職業倫理を世に推奨してゆくクラブ』『インターネットを基盤にしたせめて1か月に一度、手を握り合って心を癒したい、そういう慰安の場として親睦を主体にしたクラブ』『遠い国のことは国際ロータリーに任せ、財団に金を渡しましょうというクラブ』『地域社会に於けるボランティア活動を重点目標にするクラブ』『メンバーは国際的取引をしている人が多いから、途上国の経済開発を応援することを主体にする国際クラブ』『青少年を育成することが大事なのだ、我々はもっと青少年とともに活動するというクラブ』等々、そのクラブや地域の事情に応じた形態への変化を披露されました。

我々が「不易」として守るべき理念、そして「流行」としてロータリーの価値を守り理念の存続を担保するための変化。15年前に千壽翁が示唆された「不易流行」皆様はどうお考えになりますか。

参考資料 2000-2001年度地区大会記念講演  
「不易流行 -ロータリーの来し方行く末-」

第2790地区ロータリー理念研究委員会  
海寶勘一(千葉西)、平山勝己(千葉若潮)、  
大内 啓(柏南)、島 正彦(館山)、松田泰長(成田)